

“昭和の精神と令和の頭脳”

CALL研究会 混迷の時代勝ち抜く

【大阪】CALL研究会は大阪市内で「CALL研究会」(勉強会)を開催。会場およびオンラインで全国から参加者が集った。

今回は「昭和の精神と令和の頭脳」をテーマに実施。初日には同会の生川正洋氏が講演。「混迷の時代に勝ち残るためには、どんな時でも明るく元気な姿勢を維持する熱い精神(昭和の精神)と、高度技術化・高度情報化の先端に立って活用し道を切り開いていく冷徹な頭脳(令和の頭脳)の二つを備えなければならぬ」としたうえで、少子高齢化や人口減少といった国内の課題、国際情勢、EV(電気自動車)の急速な普及によるSSへの影響などを解説。

「混迷の時代を勝ち残るために、自分が立てた『志(こころざし)』を高く掲げ、何としてでも達成する意思を持つ。われわれに必要な

のは徹底したプラス思考だ」と熱弁し、油外事業やクオリティの高いサービスの重要性、ほかのSSとの差別化の優位性などを説いた。



勉強会の様子

また智頭石油(鳥取県智頭町)の米井哲郎代表取締役社長と担当者が「これから会社が求めるもの」と題し、米井代表がいままで手がけてきた事業や従業員に対する思いを語り、担当者が変革中の同社TCS(トータルカスタマーサポート)部や好調なレンタカー関連事業などを紹介。有田石油(和歌山県湯浅町)の荻野睦士代表取締役社長が「未来を築くために!?ぼくたちにしかできない何か!」をテーマに、顧客との関係づくりでの意識や企画などの工夫、スタッフ間の情報共有、カスタムカー製作といった同社の取り組みについて語った。